

領知朱印状にみる石清水神領内浄土宗寺院の構成

竹中 友里代

西遊寺には、浄土宗寺院三十六ヶ寺に宛てた朱印状が伝わっていた。慶長5年5月25日付けで石清水八幡宮領内に大量に発給された徳川家康領知朱印状のうちのものである。詳細については、第I部報告（鈴木）に譲るとして、ここでは朱印状から神領内の浄土宗寺院組織について考える。

朱印状発給数と板倉伊賀の目録

天明7年（1787）の「八幡末社御朱印高之覚」によると（1）、神領内に宛てられた東照宮様の御朱印は合わせて361通で、社務宛て6通、山下法体・神職町人百姓に237通、山上社僧・承知諸役料に44通と書き上げられ、そして53通が山下寺院の禅・律・法華・浄土宗寺院に宛てられたものであった。西遊寺の家康領知朱印状はこの浄土宗寺院の内の2通である。1通は、西遊寺宛て（西遊寺1号）で、もう1通は書き出しが「知行方目録」（西遊寺4号）とし、慶祐庵・長福寺・奥庵・観音寺・際講田・徳正の6ヶ寺に宛てられている。明治8年の「八幡庄内浄土宗三拾六ヶ寺朱印写来由書取調簿」（念仏寺29号）から上記六ヶ寺組とその他の寺庵に対しては各1通出された朱印状を合わせると、浄土宗三十六ヶ寺組に対して、発給された家康領知朱印状の数は31通であった。

この浄土宗三十六ヶ寺の寺庵名は、西遊寺文書では板倉伊賀守勝重から出された元和3年（1617）8月16日「石清水八幡宮山下寺庵浄土宗之目録」（西遊寺5号）で知ることができる。この目録は、二代将軍徳川秀忠の領知朱印状と同時にだされたもので、家康朱印状では上記のように31通が寺ごとに個別にだされていたが、この時から36ヶ寺で一通にまとめられた。秀忠領知朱印状（西遊寺2号）の本文中にある「別紙目録」が板倉伊賀の目録を指し、1通にまとめた朱印高の内訳を添えている。なお、この三十六ヶ寺組朱印状など13通は、明治18年12月それまで朱印状を預かっていた宝青庵住職の死去により、西遊寺にその管理が委ねられたことがわかる（西遊寺28号）。

神領内の他宗についても、法華宗寺院では家康領知朱印状は、本妙寺・乗蓮坊・円珠坊の三ヶ寺に各1通であったが、元和3年には、八幡宮山下寺庵法華宗三箇所宛てに秀忠朱印状1通とともに、板倉伊賀の目録が出されている。禅宗九ヶ寺組は、同様に板倉の目録と共に秀忠朱印状で1通にまとめられている（講田寺文書7・8号）が、三代家光までは、安禅寺と九ヶ寺組で2通、家綱の寛文印知では、安禅寺と九ヶ寺合わせて禅宗十ヶ寺組で1通となった（2）。組寺は元和3年の領知朱印状は板倉の目録と共に1通にまとめられた。他姓座にみられるように板倉の目録を添え、朱印状を1通にまとめた神人組もあった。これより神領全体の朱印状は、184通となり、この数は家光に継承された。

石清水神領では、神人宛の領知朱印状は、寛文5年（1665）徳川家綱の寛文印知で組ごとに1通にまとめられ、神領内にだされる朱印状の数は33通となるが、浄土宗三十六ヶ寺や法華三ヶ寺・禅宗九

ケ寺組については、寛文印知に先だって元和3年に1通にまとめられていた。

この板倉の目録には、寺庵名と石高のみを記し、所在地等は記さない。諸史料から所在地を推定し、一覧表にしたものが表1(116頁)である。表1の寺庵の番号を絵図上に記したものが図1「神領内浄土宗寺院所在図」(125頁)である。三十六ヶ寺は、門前町でも念仏寺のある壇所や柴座・山路・森町と神原・馬場町に集中しており、家数も多く、他宗の寺院数も多い。

浄土宗三十六ヶ寺組の特徴

この三十六ヶ寺組の内の寺院を「資料男山考古録抜粋」(117～124頁)の記述を中心にみていこう。瑞泉庵(120頁、資料23)は、慶長5年(1600)の領知朱印状発給時には森町に所在したが、中絶後に巢林庵が兼帯し、後に曹洞宗の神応寺末となり、天保13年(1842)ドンドの辻子の南、岡本个庵旧邸跡に移転し、水害に対処し土地を高く盛り上げ東に面して新造したという。神応寺文書をみると寛永11年(1634)「八幡杉山神応禅寺領指出」(神応寺3号)には、神応寺朱印領120石のうち52石4斗2升が本寺分の指出、残り67石5斗8升が末寺11ヶ寺分の指出として小字名ごとの田畠の石高と名請け人の名を書き上げている。この末寺分の配当中、小字辻の田畠1石6斗2升到瑞泉庵が名請け人に記され、瑞泉庵は、神応寺の末寺であったことが確かめられる。元禄2年(1689)の「末庵知行配分連判帳」(神応寺8号)や享保18年(1733)「定免年貢収納帳」(神応寺文書12号)にも徳雲庵・慈眼院などの末庵7ヶ寺とともに瑞泉庵に1石6斗2升が配分されている。

さて、ここで市場に流出し近年神応寺の努力によりに買い戻された古文書(3)を以下に掲出する。

神應寺 御朱印百貳拾石之内、高壱斛六斗貳升字御志畠瑞泉庵候、右御配当之田地、沽却或ハ讓類親申間布(敷)候、少々高二御座候間、一庵之結申ハ成り不申、但何之末寺へ成共妹比丘尼并我等之茶湯田付申時、御違乱被仰間敷候、諸事寺役之事ハ各々衆次ニ御無沙汰申間敷候、為後日壱札如件

元和六^庚年十二月八日

久庵口(花押)

神応寺御納所

少々解釈が難しいが大意を示すと、字御志畠にある1石6斗2升の土地は、神応寺領120石のうちの瑞泉庵領として、売却や親類に譲渡せず久庵が預かっていたが、小高ゆえに、一庵を維持することが難しくなった。そこで、久庵と妹比丘尼の茶湯田が付されるならば、どの末寺下となっても神応寺納所にその管理を委ねることを証したと解釈した。とすると元和6年にはすでに神応寺末寺知行内であったことはあきらかである。

乗春庵(121頁、資料26)は、慶長の朱印状発給時には科手にあったが、正徳5年(1714)京都の妙心寺積翠和尚が中興し、その後妙心寺塔頭蟠桃院荊山和尚が柴座町に再興して、以後禅宗となる。

現在落書き寺として知られる単伝庵(121頁、資料27)は、慶長5年には神原町の西にあり、浄土宗

三十六ヶ寺として朱印地4石2斗余りを給されたが、中絶し法童坊預かりとなっていた。正徳元年(1711)妙心寺智勝院法類で、豊後臼杵藩主稲葉氏の菩提寺である月桂寺の住持であった宗圭瑞応(1664～1734)が当地に移住して、翌年本堂を再建して中興し、以来禅宗となった。このように浄土宗三十六ヶ寺組として朱印地を宛行われたとしても後に再興時に転宗している寺庵が存在した。

八幡の山下諸寺は、元禄5年(1692)「神社仏閣并坊舎寺庵改帳」(4)によると156箇寺あり、そのうち山下浄土宗は正法寺を筆頭に98ヶ寺と、およそ三分の二を占めていた。

正法寺には方丈のほかに塔頭が10ヶ寺、末寺が10ヶ寺・中方が8ヶ寺、他領には正法寺末々寺が3ヶ寺があり、これを表2(116頁)に示した。

末寺10ヶ寺のうちの西光寺・円通庵・宝光庵は浄土宗三十六ヶ寺組の内でもある。正法寺には、末寺の他に中方と称される寺庵が8ヶ寺あり、図2「正法寺中方寺庵所在図」を見ると、すべて志水町の正法寺周辺にある。慶祐庵・安心院は、朱印地を有していた。「城州八幡愚聞抄」には「末寺中方ハ悉ク正法寺役者ノ触下ナリ、諸願等ハ末寺ハ役者エ直願ナリ、中方ハ由緒ノ院ヨリ取次願ナリ」とある。由緒の院とは表2に整理すると正法寺の塔頭であることがわかる。正法寺役者の触れ下で末寺が直接本寺役者に願書を提出するのに対し、中方の寺庵はゆかりのある塔頭を経由して願書を出すこととなっていた。また「方丈塔頭同宿坊主ニ而候」とあることから、中方は、おそらく塔頭の事務や雑務を担い法要などの儀式に付き従う僧侶の住房で、本寺より塔頭に親しく帰属する寺庵であった(5)。

つぎに念佛寺については、表3(116頁)のように末寺17ヶ寺を有し、世音庵・知善寺など6ヶ寺が三十六ヶ組の内にある。末寺には、大住八小路村の両讚寺や大住村来迎寺、上奈良村の阿弥陀寺など他領の寺も含まれる。

「諸事勤方触書証文控」(念佛寺100号)にある明和5年(1768)奉行所への寺内人数改めの報告をみると、念佛寺に居住する11才以上の男は9人、そのうち僧侶は7人、俗人2人であった。家田町の末寺惣代の玉祥庵は、16才以上2人、そのほかの末寺(世音庵65才・了正庵32才・東向寺41才・放光寺36才・十念寺64才)は住僧各1名の年齢が記され、谷畑の慶林庵・谷畑地藏院・森の奥之庵・瑞光庵・俊栄庵・蓮華寺は無住であった。念佛寺には居住する僧侶も多く役僧である納所があり、末寺や無住の寺庵の年貢勘定等を代行していた。念佛寺は、多くの末寺を配下に近在の浄土宗寺院を取りまとめ、無住の寺の寺務を代行する存在であった。

西遊寺は、「神社仏閣并坊舎寺庵改帳」には末寺は記録されていないが、同寺の(西遊寺46号)享和3年奉行所への報告がある。交野郡楠葉村に6ヶ寺、摂津国西成郡大道新家村に1ヶ寺、合わせて7ヶ寺あり、末寺安養寺末の孫寺が2ヶ寺であった。西遊寺は、山城国に朱印地を持つが、その立地より河内国に末寺があるため朱印組外として別帳に記録されていた。

町会所としての寺庵

山下寺院が宗教活動以外に町の会議所として、慶長期には確認できること、各町内には、社士や年寄が支配する会所と、百姓町人が自主運営する二通りの会所が存在していたことは、すでに指摘して

いる(6)。ここでは、浄土宗三十六ヶ寺について個別にみていく。

大谷の城福寺(119頁、資料20)は、大谷から西の奥谷への入口にある。「山上山下惣絵図」によると常昌院の西南に隣接していた。開山は長春和尚で、本尊の釈迦如来像は、宝永4年(1707)長濱新右衛門が造作した厨子に納められ、本堂は常昌院と同じ東向きで軒続きに会所が建っていた。大谷に集住する神宝所神人の社士十数人が集会する自治会所であった。

常盤町の長福寺は、朱印高8斗6升で、常盤町の社士はすべて鹿野を名乗り、神職は年老によって支配していた。また平谷町の長福寺は、朱印地1石1斗1升余りで本尊地藏菩薩を祀り、安永6年(1777)旧堂焼失後、町の年寄支配の会所として再建されたとある。

園町の東端にある会前庵は、「同町絵図」によると春日郷社の南に隣接する(7)。朱印高2石2斗6升余りで、天保年間に焼失しその後一堂を再興した時に、南の軒続きに会所を建て、町内の年寄、社士が会議所として支配していた。一方園町には、文安4年(1447)建立の由緒を持つ浄土宗の徳恩寺があり、百姓の会所として浄土宗の僧侶を置いていた。

東山路町の地藏院は、元禄頃には(8)小寺内近(内匠の誤記カ)が支配する郷内惣集会所(118頁、資料18)であった。馬場町の東林寺と神原町の地藏院は共に年寄支配の町の会所であった(120頁、資料25・28)。

また、寛保3年頃まで家田町の会所には慈徳実巖心盛法師が住持として居住していた(9)。

こうしてみると、浄土宗三十六ヶ寺組の寺庵は、町内の社士等の神領自治を担う身分層が町の会所として利用していた。「御朱印 無住之節ハ御朱印頂戴之檀家之内江相預ケ護持仕候」(西遊寺21号)とあり、無住の時は朱印状を所持している有力な檀家に預け、その管理を委ねることが多かった。そのため朱印地所持の寺院は、往々にして社士・年寄の支配をうけることとなる。

【注】

- (1) 天明7年「八幡末社御朱印高之覚」(八幡市教育委員会・石清水八幡宮『石清水八幡宮諸建造物群調査報告書』(本文編)第六章資料109頁、2007年)
- (2) 拙稿「木村家文書の淀屋関係資料と近世石清水神領」(京都府立大学文学部歴史学科『八幡地域の古文書・石造物・景観』京都府立大学文化遺産叢書第4集、2011年)
- (3) 神応寺所蔵「神応寺文書 追加仮目録補遺い-1」
- (4) 石清水八幡宮蔵「神社佛閣并坊社寺庵改帳」(八幡市教育委員会『石清水八幡宮境内調査報告書』資料編、2011年)
- (5) 名古屋市蓬左文庫蔵「城州八幡愚聞抄」。京都府立山城郷土資料館編『正法寺古文書目録』には、箱8-274 宝暦12年「安心庵後住弟子ニ付願書」は、安心庵から塔頭瑞雲院へ出され、中方から塔頭への文書がみられる一方で、箱7-583~598 寛保3年開基由来は中方各庵から正法寺役者へ直接届書が提出されている。個別文書の内容より中方の山内寺庵としての位置づけが課題である。
- (6) 拙稿「石清水八幡宮領における門前町の自治と尾張藩家老志水家」(『尾張藩社会の総合研究』六、

2015年、清文堂出版)

(7)「園町領内道筋絵図」林家文書(山城郷土資料館寄託) (『南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究』京都府立大学文化遺産叢書第1集、カラー口絵5)

(8)前掲(4)

(9)念仏寺142号過去帳 寛保3年に、「慈徳実巖心盛法師/5月26日/家/会所住持/62才」とある。

浄土宗寺院一覧表

表1 浄土宗三十六ヶ寺

番号	所在地	石高	所在地
1	西光寺	12.293	森町
2	世音庵	7.426	神原町
3	智善寺	7.8	神原町
4	慶林庵	5.923	神原町
5	宝春庵	5.733	馬場町、後南山
6	西遊寺	5.3	橋本町
7	昌玉庵	4.533	神原町
8	宝光庵	3.867	神原町
9	真善庵	3.616	馬場町
10	念仏寺	2.966	壇所町
11	成光庵	2.8	馬場町
12	圓通庵	16.333	神原町
13	玉祥庵	2.8	田中町
14	春向(興)庵	2.633	神原町、後川口村
15	西光庵	1.846	馬場町
16	清林庵	1.4	壇所町
17	祐春坊	5.8	山路?
18	地藏院	5.38	山路町
19	長福寺	7.086	柴座町
20	城福寺	10.46	大谷町
21	薬師堂	5.56	森町
22	薬園寺	5.734	森町
23	瑞泉庵	1.746	森町、後柴座町
24	西福寺	4.206	壇所町
25	東林坊	1.28	馬場町
26	乗俊坊	7.666	科手、後柴座町
27	単傳庵	4.273	神原、後山路町
28	地藏院	3.56	神原町
29	會前庵	2.266	園町
30	長福寺	1.113	平谷町
31	慶祐庵	0.86	志水町
32	長福寺	0.83	常盤町
33	奥庵	0.67	森町
34	観音寺	0.4	森町
35	際講田	0.18	際目村
36	徳正	0.1	?
計		155.72	

表1の寺庵名は、西遊寺5号「板倉伊賀守目録」(元和3)をもとに、「男山考古録」を()で記した。所在地は「考古録」及び絵図その他より推定した。表2は「神社仏閣并坊舎寺庵改帳」より作成した

念佛寺末寺表3の1~17は『神社仏閣并坊舎寺庵改帳』(元禄5)、18~20は念佛寺文書25号(安政2)、21は同100号(明和6)にあり、同時期の末寺を記したものではない。

表2 正法寺末寺

番号	寺庵名	所在地	備考	
①	西光寺	森町	末寺十ヶ寺	
②	九品寺	志水町		36ヶ寺の1
③	浄音寺	戸津村		
④	万称寺	志水		
⑤	円通庵	志水		36ヶ寺の12
⑥	聖賢院	正法寺内		
⑦	福田寺	下久世村		
⑧	宝光庵	神原町		36ヶ寺の8
⑨	了徳庵	森町		
⑩	玉樹院	森町		
⑪	慶祐庵	志水町	中方八ヶ寺	
⑫	良福庵	志水町		勁松院、36ヶ寺の31
⑬	安心院	志水町		福泉院
⑭	林香庵	志水町		瑞雲院、朱印地1.3石
⑮	福寿庵	志水町		松岳院
⑯	宝寿庵	志水町		智徳院
⑰	正光庵	志水町		松林院
⑱	岫雲庵	志水町		正寿院
⑲	無量院	戸津村		勁松院
⑳	祐楽寺	下久世村		末々寺、浄音寺末
㉑	行願寺	中久世村	末々寺、福田寺末	

備考の36ヶ寺の番号は表1の番号に対応する。

表3 念佛寺末寺

番号	寺庵名	所在地
1	世音庵	神原町
2	智善寺	神原町
3	真善庵	神原町
4	慶林庵	神原町
5	玉祥庵	家田町
6	奥庵	森町
7	瑞光庵	森町
8	了正庵	東山路町
9	十念寺	橋本町
10	地藏院	神原町谷畑
11	後栄院	芝町
12	両讚寺	大住八小路村
13	阿弥陀寺	上奈良村
14	来迎寺	大住村
15	東向寺	生津村
16	蓮華寺	山本町(神原町)
17	釈迦堂(放光庵)	川口村
18	地藏院	神原町
19	西光寺	河内国交野郡塚本村
20	西雲寺	河内国交野郡渚村
21	際講田	際目村
22	西方寺	際目村

資料 男山考古録抜粹

【浄土宗三十六ヶ寺組】

1 西光寺

森の町奥庵の東隣に在、浄土宗、三十六箇寺組内、今正法寺に附屬す、本尊阿彌陀佛、開山聖譽上人、享祿二（乙丑）年十二月十九日寂、

2 世音庵

神原町道東側、かへらすの橋少しく北也、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組の内也、本尊阿彌陀、開基世音大徳、

3 智善寺

神原町大道の東側にあり、西向、平田村道の南角也、（上に云眞善庵同所也、）浄土宗、三十六ヶ寺御朱印組の内、本尊阿彌陀、開基は妙薫比丘尼とて、小禰宜奥村權守（馬場町住社士、）先祖の女と云、慶長年間の尼也、

4 慶林庵

今絶てなし、古は谷畑の所より来る道に石橋を渡す、其所の道の傍に在しといふ、（近世迄其跡に社士奥勝右衛門居宅を建て住たりしか、子細在て善法寺家南隣へ移したり、文政年間の事か、）浄土宗、三十六ヶ寺御朱印組の内、本尊阿彌陀如来、開基順意和尚、

5 寶青庵

今志水町南山に移す、馬場町西側東林寺の南也、善法寺家表門通りを東へ大道迄、新に道を開く、（弘化年間、）其処に道より二十間許西へ入道あり、今ハ寶青庵垣内といふ、是其旧地也、当寺昔は志水にや在けむ、慶長年間記中に志水町の内寶正庵と見ゆ、

5 寶青庵

萬稱寺に対して道の東側也、寺は南向、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組内、本尊阿彌陀佛、開基宗吳和尚、旧は馬場町大道通より西の方に少しく入りて在し也、彼所今に其趾を寶青庵垣内といふ、

6 西遊寺

本祥寺の南平野山へ行道の東側、山に据て高く西面に在、浄土宗、無本寺也、本尊阿彌陀如来、開山欣譽元清上人と云、猶觀音堂、鐘堂等有、

7 昌玉庵

神原町谷川の南側に慶林寺に隣る、北向き也、浄土宗、三十六ヶ寺組内にて、本尊阿彌

陀如来、開基宗正法師、

8 寶光庵

神原町南横町大道北側少しく北へ入る所、南向、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組内、本尊阿彌陀、開基善久法印、

9 眞善寺

今神原町北端大道の東側、平田村に到る南也、次にいふ智善寺境内南西にあり、其庵土蔵の如く塗籠作り、古は馬場町の内なりしといふ、浄土宗、三十六ヶ寺御朱印組の内也、本尊阿彌陀、開基善如比丘尼也、(慶長年間の尼なりと、)

10 念佛寺

壇所町道の南側にて、今本堂等西面、(二重家根、)表門北向也、舊は觀音堂と號して空也上人暫く當寺に住居す、此上人八幡宮を信仰す、神告を蒙りし事、縁事抄に見ゆ、本尊觀音、同上人自作(云々)、古より兩度焼す(云々)、今當寺三十六ヶ寺組内也、浄土宗、本尊阿彌陀如来者、前に云高橋町大同寺に在しを移せる由、寺記に見えたり、中古開山念譽、應永二亥年正月廿五日寂、

11 成光庵

馬場町の内谷畑といふ所へ入北側、大道より半町許入所也、今絶て跡民家となる、浄土宗、三十六ヶ寺御朱印組内、本尊阿彌陀也と、開基未詳、近世前にいふ御馬所浄光院寺門西の方に移して再興せしか、弘化二年の比に顛倒して又絶たり、

12 圓通庵

同(正法寺)惣門の外、北側に在り、正法寺末寺、浄土宗、本尊阿彌陀佛、開山根譽宗善和尚、弘治二年寂、寺記曰、開基は根蓮社善譽和尚とあり、元和三丁巳年六月十一日寂、

13 玉祥庵

家田町道の南側に在、浄土宗、三十六ヶ寺之内、本尊阿彌陀佛、開山周芳和尚、

14 春興庵

同(川口)村中道の西側に在、放光寺の裏手也、浄土宗、三十六ヶ寺組の内、本尊者阿彌陀、開山和道順覚西堂也、

15 西光寺

森の町奥庵の東隣に在、浄土宗、三十六箇寺組内、今正法寺に附屬す、本尊阿彌陀佛、

開山聖譽上人、享祿二乙丑年十二月十九日寂、

16 清林庵今云森川院、

壇所町道の南側にて、正福寺の南對也、淨土宗、三十六ヶ寺組の内、本尊阿彌陀、開山清林行譽、依て寺號とす、寛永十九年九月十二日に寂す、近世森川何某柴座北町に住、次男相續してより以來、私に森川院と改號、此條八幡宮の前に書へし、

18 地藏院附、東山路、

山路町大道の西側にて、放生川東岸也、往昔此邊に東山路の通り也、宿院より橋をかけたり、五位橋と云、古圖に據て云、此處より東の方森の町に到る道を東山路といふ、當寺淨土宗、三十六ヶ寺の内、本尊地藏菩薩、立像なり、開山不知、今郷内惣集會所とす、此會所元今の壽徳院の地にて、社土富森又兵衛なる者已來當寺を用、傍に天神小祠あり、近來小寺喜六郎我か住する境内に移す、其所に云、見るへし、其後此社に宇加神を祭る、

19 長福寺

常盤郷柴座ドンドの辻子とて、安居橋通りの道北側、堂は南面なり、淨土宗、三十六ヶ寺組の内、開基不知、本尊金胎之地藏二尊相並て、岩頭之座像也、傳云、日叡山中に同躰之像在之、傳教大師之作也と、傍ニ觀音之古像を安置せり、又一幅之大名號を傳來す、幅八尺、長八間、表裝唐織物、色青地金入唐草緞子の如し、大字にて南無阿彌陀佛と書、六行の筋を引、朱字にて一字凡一尺三四寸、草行取交せて名號を書、雲烟の如く見事成もの也、下二墨書三寸許、康永三年八月、沙門拾變名花押あり、又七十三歳願主の名をも記せり、山城名勝志第十八卷云、長福寺云々、藤澤五代拾變上人開基云々、今芝座惣堂安之見ゆ、此大名號、往昔早魃之時には懸之祈雨、必有驗と云傳ふ、近來早之時、河内國交野郡春日村又諸邊へも申乞ニ付持行、何れの時も其驗あり、七日之間一日に一字つ、開く、掛方足場の仕様、寺記にあり、用之、

20 城福寺

大谷町道より西側にて、奥谷と云所への入口也、本堂東向也、軒續き一町内社土輩の集會所あり、本尊釋迦如來、開山長春和尚云々、

22 藥園寺或云森堂、

森町東端横道の東に、南面に在、淨土宗、三十六箇寺組内也、近來眞言宗、寛保三註進記に見ゆ、本尊藥師如來、唐衣々冠を着、木像也、尚次若かりし時、當町六位森本信魚師として神道を學ひ道を聞く、或時語曰、京都有識者曾我部式部當藥師像を一見して云、是如來にあらず、正しく秦徐福か像也、徐福者不老不死の藥を求めんと我邦に使用する事、人

の知る所也、藥使の稱を以て佛とせしならん、前漢書劔通傳中に徐福海に入て仙藥を求めんとて、多珍寶を齎し、童男女三千人を連れ使す云々、若然らずは少彦名命の神像歟と、此説捨かたく、猶能々像を伺て知へし、佛像にしては異躰なり、開山行基菩薩と云傳ふ、新撰緣事抄に、森藥師堂麴賣買を掌る社務下知書と云あり、又二月莊嚴頭役を勤めし事見ゆ、延慶二年二月、又徳治二年四月の記にも見ゆ、又湯屋湯井職の事、建武四年四月之記に見ゆ、又太平記へ八幡合戦の條、云、山名右衛門佐財園院二陣ヲトレハ、左兵衛督猶守堂口ニ支テ防カントスへ云々見ゆ、當の鐘今淀城内に在て、銘に其由書たりといふ、堂前に一大樹の楠あり、慶長四年古圖に影向楠木と書り、鎮守に天神社ありしと記とも有と、今無し、

23 瑞泉庵

同上(柴座町)辻子道の南側に在て、田福寺に正對ふ、舊は淨土宗、三十六箇寺組之内にて、慶長五年御朱印被成下時の記ともに據は、森之町に在しか、其後中絶して巢林庵に兼帶せし也、近く天保十三年壬寅岡本箇庵か跡の空地を開きて、此地箇庵跡南隣富森御春買得して同族森篤也、方菜畑を譲り請て、樹木等伐拂、水害を避んとて高く築地して、東面に新造、再興主は壽仙尼也、社土粟津將監か女也、然れとも田福寺當住悠然我寺と同く運州和尚を以て中興とせり、本尊者舊瑞泉庵傳來古佛十一面觀音立像、高一尺五寸許、原開基者祥丘宗慶尼、寛永八年正月五日歿、實兄久庵爲心と云を以て開山とせるよし也、又寛永十一年神應寺記に據に、字辻といふ田畑一石六斗二尺配與へ云々、神應寺末寺也、元祿二、享保六差出帳二も見ゆ、

24 西福寺

清林菴の東に立枯といふ園道石橋放生川上流、行細道の東に、北面に在り、淨土宗、三十六ヶ寺組内也、本堂古は東の方に在て西面なりしか、近く文政年間に北面に改造す、田中町住村岡權右衛門施主、本尊今毘沙門天王也、開山不知へ云々、尚次按に、當寺本尊至て古像也、是舊者當山護國寺堂内に安置ありし四天王の一軀ならん、其寸尺今彼御堂内に一躰在る増長天王と同尺也、然りと雖も、後世猥に拙工の修理を加へて古躰を損したるとも改替たりといふ、當寺の棟札にやと思はる、板札を厨子内に納む、元和二年四月廿七日、毘沙門寄進へ云々と記せり、摩滅して見難き處も有と、山上中坊先住にや有らん名あり、今忘れたり、此元和の比は護國寺假堂も無くて、佛躰かたくに散亂在し故に、後世彼堂再興なとも思ひえず、僞忽に當寺に其一躰を遷せしものならん、左なくては斯る古佛の山上に在ん事は、外に思ひあたらす、十二將神等同作と見え、又古色も同し、據て此事を録して後の考を俟つ、當堂中世明和四丁亥六月に造營す、元和の堂にはあらず、又文化に修造せり、

25 東林寺

馬場町西側谷畑道より半町許北也、浄土宗、三十六ヶ寺御朱印組の内、本尊阿彌陀、開基不知、旧昔より馬場町の総寺にて、慶長五年御朱印被成下時の堂守の名を以て申出つる也と、東林坊とあり、

26 乗春庵

同(柴座町)辻子道の北側、長福寺東隣也、浄土宗、三十六箇寺組内にて、舊者科手町に在て、御朱印には科手乗春坊と有、是なり、正徳五乙未年京都妙心寺積翠和尚中興、其後同妙心寺塔頭蟠桃院荊山和尚再興にて當所に在、今者禪宗也、本尊觀世音を安す、開基不知、

27 單傳庵

山路町の内奥の町の良隅にて、安居橋通り東道の末也、舊者神原町の道の西側に在しか、中絶の後山上法童坊に預り居しか、當今禪宗となりて此所に移せり、本尊阿彌陀佛、開山不知、寛保三年註進記には、經藏等を記せり、又丹傳と書るもあり、正徳二年壬辰二月本堂再建して、京妙心寺智勝院法類にて、豊後國臼杵城主稻葉家の菩提所月桂寺六世瑞應移住て中興とし、以來禪宗と成し由也、へ本堂者嘉永七年地震にて顛倒せり、へ

28 地藏院(附、大樹)

神原町大道通りより谷原へ入る道の角坤方に在り、南向也、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組内、本堂に地藏尊を安置す、春日佛師の作と云伝ふ、開基未詳、境内良角に大樹オホノキと称する榎木の太木あり、へ半朽て蔽の如しへ古凶にも見えて最古き物也、里老也、古一里塚には榎木を植えられし事ありと、猶可考、へ織田信長公の仰を受けて、一里毎の標に植たる時、オモ役木の承誤て榎木を植えし事一書に在、其内か、へ

29 會前庵

園町東端に在り、西面也、古堂近く天保年間間に焼失せり、引続て一堂再興せり、今在る堂是也、南軒続きに會所を建る、当町會議所に用、浄土宗、三十六ヶ寺朱印組内、本尊地藏菩薩也、開基不知、

30 長福寺

平谷北町道の西に東向にあり、浄土宗、三十六ヶ寺朱印組内也、本尊地藏菩薩、開基不知、安永十辛丑正月六日に旧堂焼せり、当堂は其後町内集会所として再建せり、

31 慶祐庵

同正法寺南、惣門の外よりは半町許東、道の北側に在しと云、同上中方、浄土宗、御朱

印三十六ヶ寺組の内、本尊同上、開山昌榮、年月不知

32 長福寺

常盤町の道の西側にて、安橋寺よりは少しく南に在り、浄土宗也、本尊に薬師像を安置す、近來鹿野山と冠らせ稱ふ、當町内社士輩皆鹿野といふ、開基不知、

33 奥庵

森町の道の北側に小菴あり、南面也、浄土宗、三十六ヶ寺の内、本尊阿彌陀佛、開基不知、大禰宜能村仲民か先祖の建る所といふ、

34 觀世堂

森町東端にて大道の南側に在、浄土宗、三十六ヶ寺組内也、本尊觀世音、開山行基菩薩と云傳ふ、此寺大道の末にて、此所より園口と家田口とへ行道ありて、此大道の限りの處に門在しと見ゆ、柱根不殘、

【正法寺末寺】

② 九品寺〈号阿彌陀堂〉

今は志水町より東側にて少く東へ入て在り、舊は行教和尚開基にて、今三鳥居の西元三堂に隣る梅本坊の傍に、少く低地の打平けたる所有、其蹟地といふ、本尊阿彌陀なれば阿彌陀堂といへるか、舊図に南谷に此名見えたり、毎年十月十五日開扉、大菩薩の神作と云伝ふ、猶委く別にいふへし、田中家古図に、馬場末塔の西にて、今志水坂の下口なる西の藪中の如く見ゆる所に、大なる堂を画たるハ是か、

④ 萬稱寺

志水町道の西側、東側にあり、上に云無心庵の南少く小高き処に移る、本堂本尊本尊阿彌陀、開山本譽即堂和尚、鐘樓あり、

⑤ 圓通庵

同(正法寺)惣門の外、北側に在り、正法寺末寺、浄土宗、本尊阿彌陀佛、開山根譽宗善和尚、弘治二年寂、寺記曰、開基は根蓮社善譽和尚とあり、元和三丁巳年六月十一日寂、

⑥ 成徳院〈附、聖賢院〉

同上福泉院南隣、正法寺末、浄土宗、本尊阿彌陀、開山還譽上人、成徳院旧は馬場町に在て後此所に移る、当院旧聖賢院といふ、開山還譽上人也、成徳院開山は増譽兆益和尚にて、往蓮社還譽上人、寛永八年十月十八日寂(云々)、

⑧ 寶光庵

神原町南横町大道北側少しく北へ入る所、南向、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組内、本尊阿彌陀、開基善久法印、

⑨ 了徳庵

森の町奥庵より少西に、北へ二十間許入所、南面にあり、浄土宗にて正法寺末寺也、本尊阿彌陀佛、開山了西、

⑩ 玉樹院

森町の半に橋あり、其東爪より北へ廿間許入て西面に在しか、近來絶て無し、本尊阿彌陀佛、開山不知、浄土宗也、六位森本三郎兵衛といへるか建立といふ、正法寺末寺也と、

⑪ 慶祐庵

同正法寺南、惣門の外よりは半町許東、道の北側に在しと云、同上中方、浄土宗、御朱印三十六ヶ寺組の内、本尊同上、開山昌榮、年月不知、

⑫ 良福庵

志水町大道通り西側、正法寺よりは一町許南に在り、正法寺中方、浄土宗、本尊同上、開山未詳、一書に良運大徳にて、天正十六年示寂と云々、

⑬ 安心庵

(正法寺)惣門の外、南側に在り、正法寺末寺、本尊阿彌陀、開山正悦、寛永六巳年六月朔日に寂、

⑭ 林香庵

同上寶壽庵の隣、正法寺中方、浄土宗、本尊阿彌陀、開山玉林といへとも、寺記には傳慶とあり、年号不知、只亥六月九日命終と計、寺記に見ゆ、

⑮ 福壽院

同(正法寺)南門の外、智福院南に在り、同正法寺中方、本尊阿彌陀、開山立山天譽、元禄五年正月廿一日寂、

⑯ 寶壽庵

同上寶壽庵より南西に在り、同中方の内、本尊同上、開山浄音、寺記に清譽浄春、寛永十八巳年十二月廿七日寂とあり、

⑰ 正光庵

志水町北端道の西側に在り、浄土宗、正法寺に属、本尊薬師如来、開基浄音、

*寺庵の番号は表1・2に対応する。所在等原本で省略されている部分については（
）で補い、割書は（ ）で表した。

图1 神領内浄土宗寺院所在図

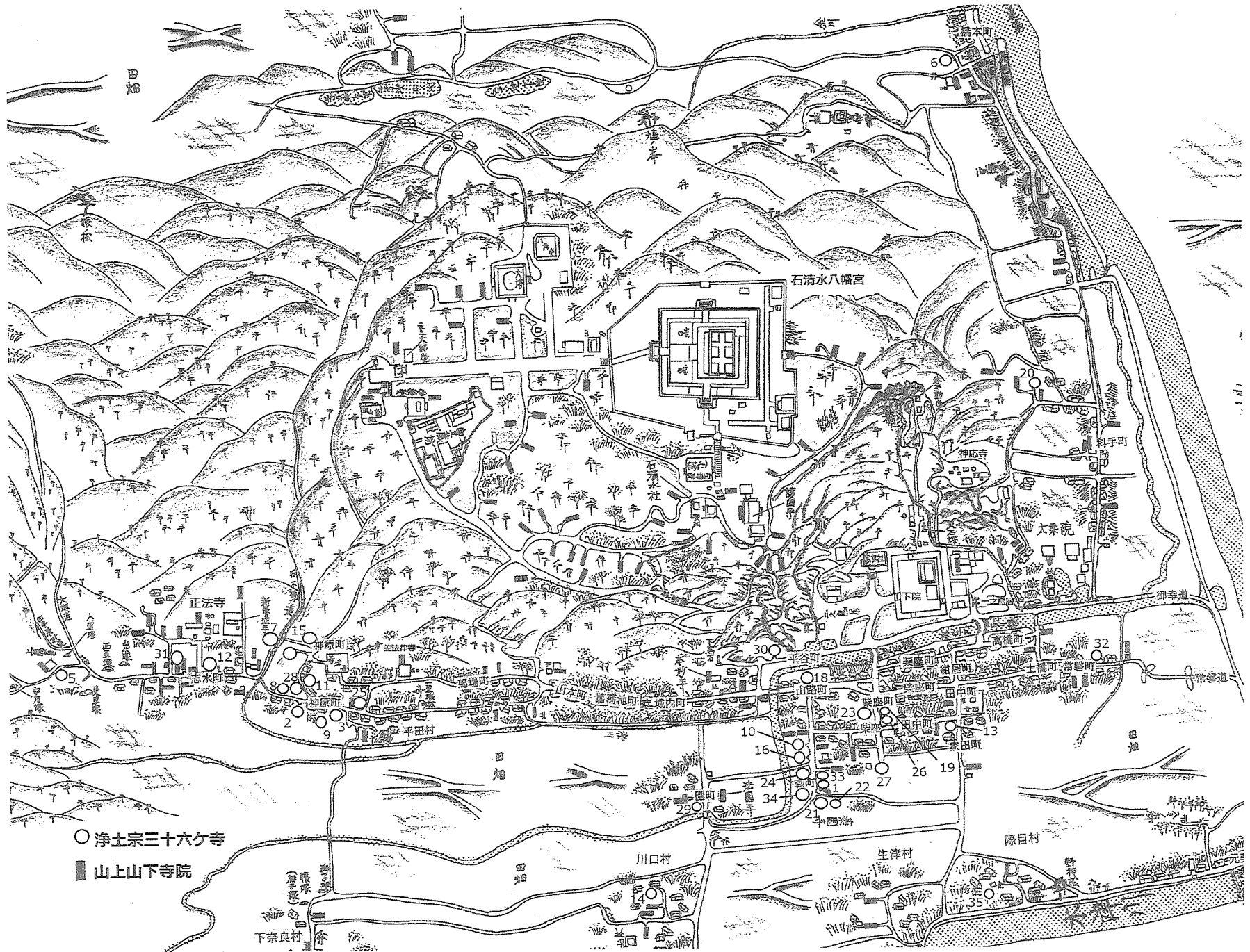
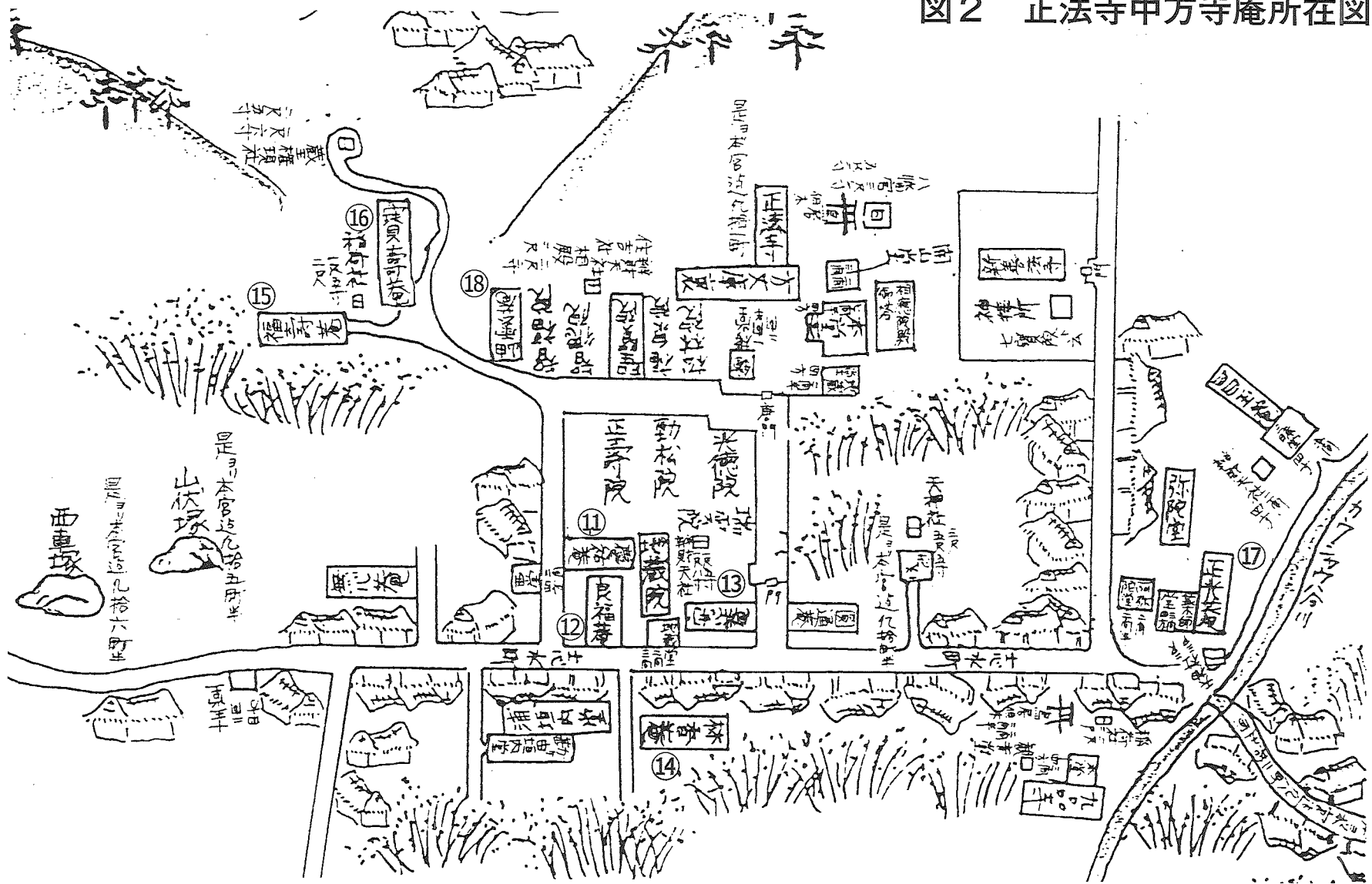


图2 正法寺中方寺庵所在图



表紙解説

	1 2 3
5	4
(裏)	(表)

1. 西遊寺古文書調査の様子
2. 念佛寺門前（撮影：中井正寛）
3. 念佛寺古文書調査の様子
4. 安居橋から男山を望む（撮影：中井正寛）
5. 八幡清水井の路地田町（たまち）（撮影：中井正寛）



京都府立大学文化遺産叢書 第10集

石清水門前寺院・南山城地域の古文書

—京都府歴史資料の調査—

編集 竹中友里代（京都府立大学文学部特任講師）

東昇（京都府立大学文学部 准教授）

発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都教区八幡組浄土宗青年会

発行日 2016年3月30日

印刷 双林株式会社

〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル
